



BUSINESS REPORT

第 67 期 中間報告書 2017.2.1 >>> 2017.7.31

積水ハウス株式会社

証券コード：1928

ECO¹
FIRST 環境大臣認定
エコ・ファースト企業

業界初の〈エコ・ファースト企業〉として環境大臣より認定を受けました。

SLOW & SMART

ゆっくり生きてゆく、住まいの先進技術。

快適な生活を実現する 積水ハウスのテクノロジー

1 新しい「イズ・シリーズ」が空間提案を拡大

鉄骨住宅の高級商品「イズ・シリーズ」に新構法「ダイナミックフレーム・システム」を導入。
縦横に広がる空間提案を強化、開放的で心地よい広がりをもたらしめます。



天井高2.74m、幅最大7mの無柱大空間による「スローリビング」



最大8mの小屋吹き抜け

縦横に広がる無柱大空間を形成

「ダイナミックフレーム・システム」

優れた安全性能と設計自由度を両立する「ダイナミックフレーム・システム」は、住宅の構造を強化し、天井高2.74m×幅最大7mの無柱大空間を実現。連続する大開口サッシのコーナー配置とともに、内と外を中間領域で緩やかにつなぐ「スローリビング」の空間提案を縦横に拡大しました。最大8mの小屋吹き抜けも可能となり、ダイナミックで変化に富んだ快適な空間を生み出します。

大空間・大開口でもZEHを実現する

「超高断熱アルミ樹脂複合サッシ」

新「イズ・シリーズ」は、大空間・大開口による広がり豊かさ「ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス（ZEH）」対応を両立。一般のアルミ樹脂サッシの約1.4倍の断熱性能を持つ業界最高水準の「超高断熱アルミ樹脂複合サッシ」を開発し、標準採用しました。消費エネルギーを大幅に低減しながら快適性とゼロエネルギーを実現します。

遮熱断熱・防犯合わせ
複層ガラス

ガラス中空層16mm
(アルゴンガス入り)

オリジナル断熱構造
熱を伝えにくい断熱樹脂を
全周に追加

ワンランク上の高い
匠性と機能性を両立した
積水ハウスオリジナルの
超高断熱サッシ

進化した断熱性能と
デザイン性
操作性も向上させた
次世代サッシ

超高断熱
アルミ樹脂複合サッシ

アルミ形材

室外側

2 国内初 賃貸住宅でも全住戸ゼロエネルギー化

ZEH普及に注力する積水ハウスは、戸建住宅から分譲マンションへの展開に続き、国内で初めて全住戸ZEH基準を満たす賃貸住宅を建設します。

賃貸住宅に新たな価値をもたらす

3階建シャーメゾン「ベレオ」

積水ハウスは、全住戸ZEH基準を満たす3階建賃貸住宅ベレオを石川県金沢市にて受注し、建設します。これまでも東京エリアでは、一部の住戸でZEH基準を満たす賃貸住宅を建設してきましたが、全住戸ZEHとなる賃貸住宅は全国初・業界初となります。集合住宅では住戸数に対して相対的に屋根面積が小さく、1戸当たりの太陽光パネルの設置面積が不足するため、国の定めるZEH基準を満たすことが困難とされ、現時点で集合住宅のZEH化は国の普及目標の対象外となっています。

今回建設する賃貸住宅は全13戸で、高断熱複層ガラスをはじめ、高効率エアコン、高効率ヒートポンプ給湯機、節湯水栓、LED照明など省エネ性能に優れた設備を採用し、エネルギー消費量を最大限に削減。これにより各住戸に必要な太陽光発電パネルを平均2.4kWに抑えることで、日射量が少ない金沢においても全住戸でZEH基準を満たすことができました。

積水ハウスは、賃貸住宅に新たな価値をもたらすZEH賃貸を提案することで、これまでにない市場を創出し、ZEH普及への取り組みをさらに加速させていきます。



本物件でZEHを実現する仕様の概念図(住戸により仕様は異なります)



物件名:「ZEH21」
構造:重量鉄骨3階建 規模:住戸13戸、店舗1戸

賃貸住宅ZEH化のメリット

入居者様



省エネ効果と太陽光発電の自家消費により、光熱費の削減が可能となります。また断熱性能が高いため、冬は暖かく夏は涼しい住環境で、快適に過ごせます。

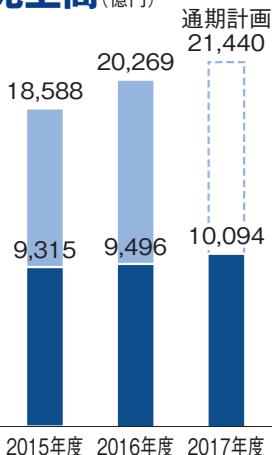
オーナー様



光熱費の削減効果を訴求することで、入居者の確保・定着につながり、経営の安定化を図ることができます。また、賃貸市場における物件の優位性が長期的に保たれる差別化要素となります。

連結決算ハイライト

売上高 (億円)

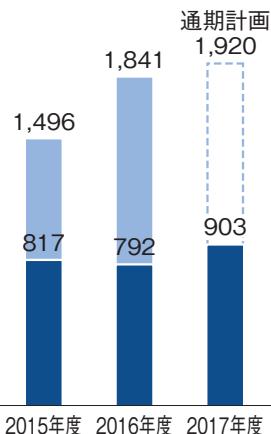


10,094 億円

前年同期比 +6.3%

“住”に特化した成長戦略が奏功し、期初計画より394億円増加。売上高は第2四半期として過去最高の1兆円を突破しました。

営業利益 (億円)

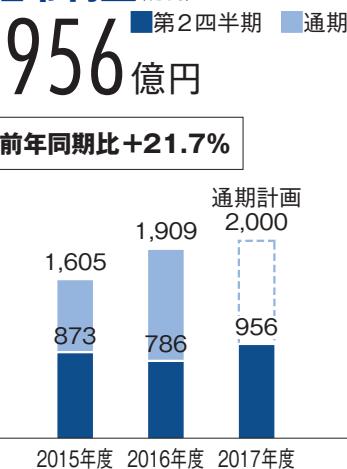


903 億円

前年同期比+14.0%

全ビジネスモデルで増益。第2四半期で過去最高益を達成し、営業利益は14%増となりました。

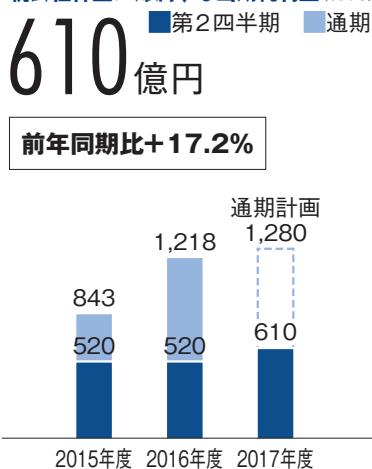
経常利益 (億円)



前年同期比+21.7%

持分法投資利益や円安の影響による為替差益により、経常利益は21.7%増加の956億円となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益 (億円)

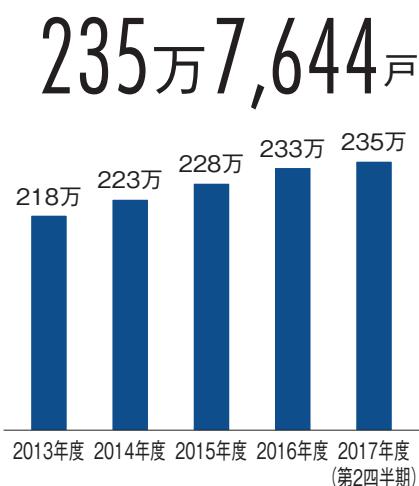


610 億円

前年同期比+17.2%

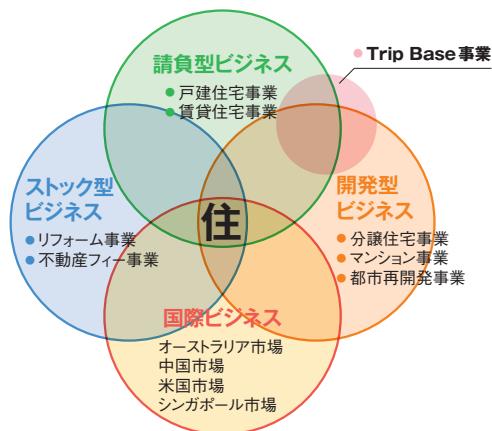
税率変更による法人税減少等により、当期純利益は17.2%増加。EPSは88.41円になりました。

累積建築戸数 (戸)



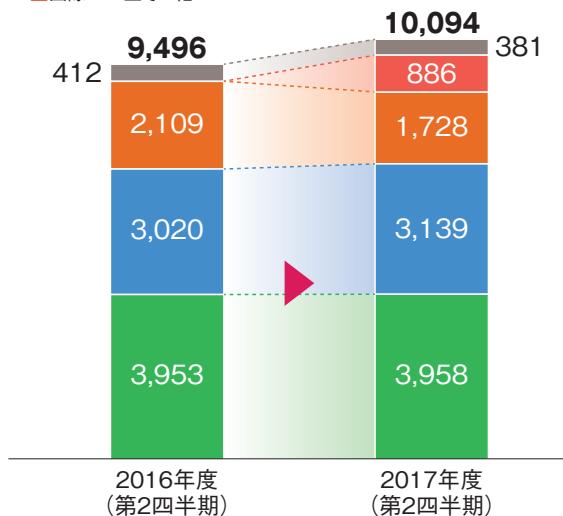
累積建築戸数は23,422戸増え、235万7,644戸となりました。

セグメント別の状況



事業別売上高 (億円)

■ 請負型 ■ ストック型 ■ 開発型
■ 国際 ■ その他



※ 2017年度より国際事業を1つのビジネスモデルとして区分いたしました。

請負型ビジネス

戸建住宅事業 1,855億円 (1.5%減)
前年下期の受注減少の影響を受け減収となるものの、利益率改善で増益となりました。

賃貸住宅事業 2,102億円 (1.6%増)
3・4階建て商品の販売戦略が奏功し、増収増益。都市部では3・4階建てのニーズが強く、1棟当たりの売上単価も上昇しています。

ストック型ビジネス

リフォーム事業 702億円 (2.7%増)
賃貸住宅のリフォームが好調に推移し、前年同期比2.7%の増収増益となりました。

不動産フィー事業 2,437億円 (4.3%増)
一括借り上げ物件の増加や、高い入居率の維持等により、増収増益となりました。

開発型ビジネス

分譲住宅事業 799億円 (16.8%増)
前年に引き続き好調な推移により増収増益。一次取得者層を中心に受注も順調に進捗しています。

マンション事業 288億円 (8.9%減)
引き渡しの端境期にあたり、減収となりましたが計画通りに進捗。受注は好調に推移し、前年を大幅に上回りました。

都市再開発事業 641億円 (17.1%減)
リートへの物件売却を前倒しで実施。賃料収入は安定的に推移するも、物件売却規模の減少により減収となりました。

国際ビジネス 886億円 (163.6%増)
豪州で順調に引き渡しが進んだことに加え、米国でも3月に買収した Woodside Homes の収益が貢献し大幅な増収増益となりました。

その他 381億円 (7.5%減)
前年同期比で7.5%減少し、381億円となりました。

順調に推移する新中期経営計画。
さらなる企業価値向上を目指し、
新たな視点で
「事業創出」を推進します。



代表取締役社長兼 COO
阿部 俊則

代表取締役会長兼 CEO
和田 勇

4つのビジネスモデルを成長戦略の核に、 事業の強化、領域拡大に取り組みます。

事業ドメインを“住”に特化した成長戦略のもと、2020年以降、事業環境が大きく変わると捉え持続的な成長を図るべく、「BEYOND2020に向けた“住”関連ビジネスの基盤づくり」を基本方針とした、第4次中期経営計画に着手いたしました。経営基盤、財務基盤の強化を図りながら、より一層の企業価値向上を目指した事業展開を推進することを、まず、株主の皆様にお約束させていただきます。

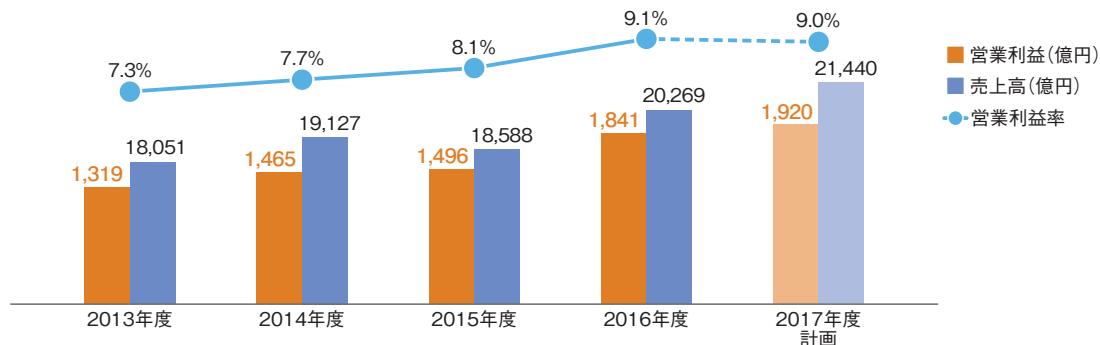
積水ハウスグループの事業を牽引してきた「請負型」「ストック型」「開発型」のビジネスモデルに加え、「国際ビジネス」

を新たな柱に位置付けた新計画。今後、この4つのビジネスモデルを成長戦略の核として、事業領域のさらなる拡大にも積極的に取り組んでまいります。

加えて、これを支える経営基盤、コア・コンピタンスである“技術力”、“顧客基盤”、“施工力”。積水ハウスの圧倒的な“強み”を営業展開の武器として最大限に活用してまいります。

“技術力”に関しては、制震システム「シーカス」や、空気環境配慮仕様「エアキス」はもとより、オリジナル外壁「ダインコンクリート」「ベルバーン」、鉄骨3・4階建ての「βシステム構法」等、他社との差別化を図りながら、一方では、業界最多

業績の推移



人数を擁する一級建築士をはじめとする“人材力”も大きなポイントになります。累積建築戸数235万戸という“顧客基盤”はストックビジネスの貴重な財産です。また、グループ内に積和建设という施工会社を持つ“施工力”は、コア事業拡大を支え、後押しする推進力になります。

住まいの価値、質を追求しながらのZEH普及。 インバウンド需要を新ビジネスにつなげます。

こうした“強み”を背景に、政府が積極的に推進するZEH（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）の販売実績でも、積水ハウスは、他の住宅メーカーの追随を許さない成果をあげています。2017年7月末現在の累積販売棟数は31,072棟。その比率は新築戸建住宅の79%となり、90%を超える支店も複数出てきました。ただ、私たちが胸を張りたいのは、単に“数が多い”ということだけではありません。大きな開口部を確保し、スローリビングを採用するなど、豊かさや快適さという住まいの価値、質を追求しながら「SLOW & SMART」の家づくりでZEH化を実現しているという点です。

戸建住宅だけでなく、集合住宅のZEH化にも積極的に取り組んでいます。集合住宅は住戸数に対して相対的に屋根

面積が小さいため、1戸当たりの太陽光パネルの設置面積が不足するという課題があります。その課題を、住まい全体の断熱性能の向上や先進の省エネ設備の導入など、独自の環境技術、時代を先取りする発想で解決。名古屋に建設

中の分譲マンションに続き、現在、全住戸ZEHとなる全国初、業界初の賃貸住宅を石川県金沢市で建設しています。今後も新たな工夫、技術を取り入れながら、時代の要請でもあるZEHの普及に全社をあげて注力します。

新たなビジネスチャンスという視点から、インバウンド需要への対応も重要なテーマです。例えば、ホテル建設などの開発事業を展開。中部国際空港（セントレア）に建設中のホテル、「フォーポイントバイシェラトン」は、2018年秋に開業の予定です。

また、積水ハウスのコア事業の工場出荷材を使用したホテルや宿坊、サービスアパートメントなどの建築を新たなビジネスチャンスととらえ、「Trip Base事業」として今後の成長分野にしていきたいと考えています。工場出荷材の活用は工期短縮などのメリットを提供する他、工場の稼働率向上にも貢献します。これは「第4次中期経営計画」の「事業創出」の一環でもあります。

進化する積水ハウス。 社会とともに、夢のある未来図を描きます。

企業が事業用に保有する遊休不動産の開発、有効活用を企画提案から支援する「CRE事業」も本格的に動き始めました。今後、積水ハウスグループの総合力、ノウハウを生かし、戸建住宅、マンションから、医療・介護施設の建設なども含めたまちづくりを全国で展開する計画です。地域に密着した支店ネットワーク、エリアのニーズを的確にとらえた提案力。積水ハウスの“強み”を発揮できる有望な事業分野だといえ、国や地方自治体と連携した公的不動産活用「PRE事業」と併せて積極的に推進してまいります。



住宅産業を成長産業として牽引するキーワードは「環境」と「ストック」です。国内においては、既存住宅市場、リフォーム市場の活性化に向けた具体的な政府目標が打ち出されています。私たちの主張が国の施策と合致してきました。高い付加価値を生むリノベーション事業にも新たな可能性が広がります。「入居者ファースト」「地域のプライスリーダー」を合言葉に掲げる不動産フィー事業も好調です。質の高い賃貸住宅が高い入居率を確保するという好循環が生まれています。

一方で、4つ目のビジネスモデルである「国際ビジネス」に関して、新たなステージに進む契機となるニュースがあります。今年3月、米国において、個人を顧客とした戸建住宅事業を行う「ウッドサイド・ホームズ社」を買収し、BtoC事業に参入しました。

順調な米国経済を背景に、住宅市場は今後ますます需要が高まると予想されています。カリフォルニア州では、2020年までに新築住宅のZEH規制が導入される見込みです。こうした市場状況は、積水ハウスの環境技術を生かした住宅販売事業参入への絶好の機会です。そのファースト・ステップとして、長年にわたり複数地域で統一されたブランドで安定的な収益基盤を確立している「ウッドサイド・ホームズ社」を

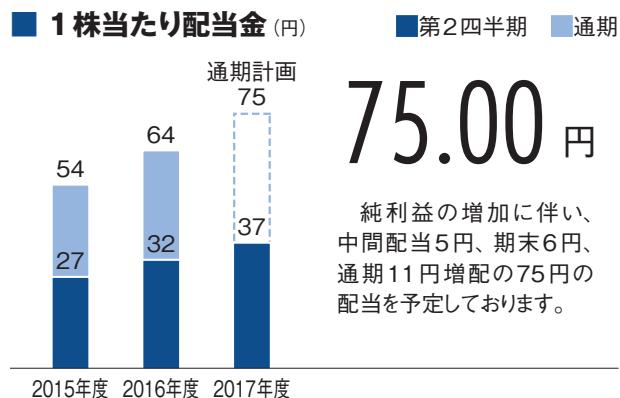
買収するという経営判断を行いました。

「住まいから社会を変える」。住宅産業の成長は、社会の成長とともにあります。積水ハウスは、年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)によるESG投資の運用開始に際して、「FTSE

Blossom Japan Index」「MSCIジャパンESGセレクト・リーダー指数」「MSCI日本株女性活躍指数(WIN)」の3つの指数すべての構成銘柄になりました。ESG投資では、「環境・社会・ガバナンス」が企業の価値を測る材料になります。特に近年、海外では、ESG要素が強く意識されています。

積水ハウスは、今後も、時代性、社会性の高い企業活動を推進します。「働き方改革」においても、労働時間や労働生産性だけに目を奪われるのではなく、社員一人ひとりが自分の質を高める、幅を広げて成長するという観点から、より先進的な取り組みを進めています。そうした個人の成長の足し算、掛け算は、企業の成長にもつながるはずです。

IoT(インターネット・オブ・シングス)、AI(人工知能)、ロボット技術の進化など、めまぐるしく変化する事業環境の中心に「住宅」があり、そこに私たちの未来があります。積水ハウスは、今後も常に社会との接点を大切にしながら業績拡大を図り、より夢のある未来図を描き続けます。進化する積水ハウスの「これから」にご注目ください。



連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	当第2四半期末 (2017年7月31日現在)	前期末 (2017年1月31日現在)
資産の部		
流動資産	1,458,582	1,355,029
固定資産	836,855	829,865
有形固定資産	562,883	563,682
無形固定資産	21,998	13,345
投資その他の資産	251,973	252,837
資産合計	2,295,437	2,184,895
負債の部		
流動負債	771,970	713,945
固定負債	378,261	352,685
負債合計	1,150,231	1,066,630
純資産の部		
株主資本	1,033,488	996,565
資本金	202,591	202,591
資本剰余金	251,563	253,559
利益剰余金	580,310	577,663
自己株式	△ 976	△ 37,248
その他の包括利益累計額	96,826	106,793
新株予約権	728	694
非支配株主持分	14,162	14,211
純資産合計	1,145,206	1,118,264
負債純資産合計	2,295,437	2,184,895

連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	当第2四半期(累計) (2017年2月1日から 2017年7月31日まで)	前第2四半期(累計) (2016年2月1日から 2016年7月31日まで)
売上高	1,009,484	949,622
売上原価	798,566	755,930
売上総利益	210,917	193,691
販売費及び一般管理費	120,531	114,424
営業利益	90,385	79,266
営業外収益	7,933	7,797
営業外費用	2,667	8,451
経常利益	95,651	78,612
特別利益	888	—
特別損失	9,321	338
税金等調整前四半期純利益	87,219	78,274
法人税等	25,689	25,856
非支配株主に帰属する四半期純利益	520	346
親会社株主に帰属する四半期純利益	61,008	52,070

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	当第2四半期(累計) (2017年2月1日から 2017年7月31日まで)	前第2四半期(累計) (2016年2月1日から 2016年7月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,998	△ 7,698
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 61,625	△ 59,204
財務活動によるキャッシュ・フロー	72,538	51,671
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 1,663	△ 7,450
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	6,250	△ 22,682
現金及び現金同等物の期首残高	204,701	192,338
現金及び現金同等物の四半期末残高	210,951	169,655

NEWS FLASH

ニュースフラッシュ

ビッグデータ活用でゼロエミッションを強化

次世代システムに移行、建築工事で運用

積水ハウスが業界に先駆けて取り組んできたゼロエミッション（施工現場における廃棄物の削減と回収、再資源化）を強化すべく、積水ハウス版ビッグデータ「邸情報データベース」と緊密に連携するシステムを再構築し、自社の建築工事での運用を開始しました。

今回新たに、クラウドサービスを活用した収集システム「ぐるっとPass」と、施工現場で発生した廃棄物の正確な区分・把握ができるQRコードシステムを導入。「邸情報データベース」と連携することで、施工現場の廃棄物の発生から回収までを一元的に把握することが

可能になりました。また、QRコードによって施工現場から出る廃棄物を種類ごとに発生量を確実に把握します。コスト削減を実現するとともに、施工現場の作業負担を低減します。また、資源回収に掛かる配車の効率化を通じて、省力化およびCO₂排出量の削減にもつなげていきます。今後、リフォーム工事、アフターメンテナンス工事へと対象を拡大していく予定です。



日本初 分割可能なロボット式 防蟻再施工システム「スプロボ」※

賃貸集合住宅の床下防蟻工事で活躍

積水ハウスリフォーム3社は、株式会社コシイプレザービングの協力のもと、ロボット式防蟻再施工システム「スプロボ」による賃貸集合住宅の床下防蟻処理工事の受注を開始しました。

「スプロボ」は、建物外部の基礎にある床下換気口から施工ロボットを入れ、映像をモニターで確認しながら遠隔操作で防蟻処理を行うシステムです。ロボットは4つのユニットに分割でき、狭い床下換気口からでも分割挿入して組み立てて、作業が可能です。

オーナー様の建物の資産価値維持と長寿命化を図るべく、「スプロボ」による定期的なメンテナンスを促進していきます。

※「スプロボ」は積水ハウスの商標です。



① 開口部から施工ロボットを挿入



② モニターで散布範囲確認、記録写真も撮影可能



③ 建物外からロボットを遠隔操作



④ 遠隔操作による薬剤散布

「新・ダイバーシティ経営企業100選」受賞

業界唯一、「なでしこ銘柄」にも4度目の選定

積水ハウスは、経済産業省主催の平成28年度「新・ダイバーシティ経営企業100選」を受賞し、同時に、経済産業省および東京証券取引所の共同実施による平成28年度「なでしこ銘柄」に選定されました。「なでしこ銘柄」は、住宅・建設業界で唯一4度目の選定となります。

積水ハウスでは、約2年間かけて女性管理職を育成する研修「積水ハウス ウィメンズ カレッジ」を2014年から実施しています。また、ITを活用して業務効率化を推進するとともに、育児・介護を行う社員の在宅勤務が可能となるなどダイバーシティ経営の取り組みが評価されました。

これからも、全ての多様な人材が活躍できる働き方改革“わくわくドキドキ心躍る職場づくり”の取り組みを推進し、持続的に成長・発展していく企業を目指します。



「なでしこ銘柄」

「女性活躍推進」に優れた上場企業を選定



「新・ダイバーシティ経営企業100選」

多様な人材の能力発揮によりイノベーション等を生み出している企業を表彰



中部国際空港（セントレア）島内初の 外資系ホテルを来秋開業

旅客増とインバウンド需要拡大に対応

積水ハウスは、中部国際空港（セントレア）の島内隣接地に「フォーポイントバイシェルトン名古屋 中部国際空港」を2018年秋に開業します。

当ホテル事業は、積水ハウスがプロジェクトマネジメントおよび建物の設計・施工を担い、マリオット・インターナショナル（本社：米国メリーランド州）がホテル運営を行うものです。総客室数319室の他に、ロビーラウンジ、会議室、エクササイズ設備などを備え、発着する旅客機が望めるなど絶好のロケーションで1日を快適に過ごしていただける都市型ホテルです。セントレアに新たな魅力を付加し、広く中部圏の経済活性化に寄与していくとともに、日本の成長産業として期待されるインバウンドビジネスの拡大に貢献していきます。



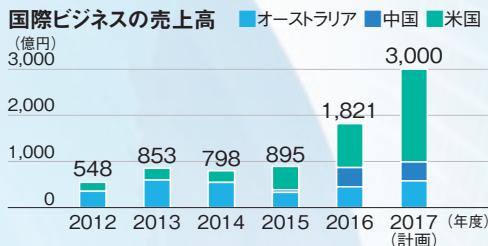
FOUR
POINTS
BY SHERATON

国際ビジネスの拡大 — 「第4の柱」として成長を加速—

付加価値の高い住宅・住環境を海外へ

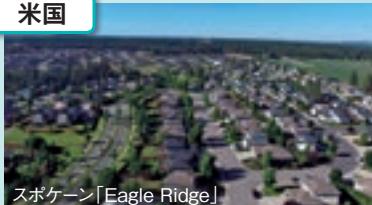
積水ハウスは、国際ビジネスを事業の4本目の柱と位置付け、「第4次中期経営計画」を通じて取り組みを強化していきます。

国際ビジネスは現在、オーストラリア、米国、中国、シンガポールの4ヶ国で展開しており、日本国内の住宅づくりで培ってきた高品質な技術・サービスを活かし、高付加価値を武器に現地住宅市場へのアプローチを進めています。



海外で進行中のプロジェクト

米国



スポークン「Eagle Ridge」



デンバー「Union Denver」

全米でコミュニティ（居住用宅地開発）事業およびマルチファミリー（都市型賃貸住宅開発）事業を展開。また、当期より新たに住宅販売事業に参入します（本文参照）。

米国ウッドサイド・ホームズ社を買収

宅地開発、賃貸住宅開発に加え、住宅販売事業に参入

このたび積水ハウスは、米国事業の拡大に向けて米国西部を中心に事業展開する大手ホームビルダー、ウッドサイド・ホームズ社を買収し、住宅販売事業に参入しました。

同社は、顧客の多様性、地域性に応じた商品を提供していることに加え、米国内では先進的とも言える考え、取組みで環境に配慮した住宅の販売も行っており、今後はお互いの経験とノウハウを活かして米国事業の拡大を図ります。

中国



太原「裕沁庭」



無錫「裕沁湖畔庭」

江蘇省および遼寧省でβシステムの低層住宅およびマンション事業を展開。「裕沁」ブランドとして提案している内装付き住宅は、高品質施工やPM2.5対策などの環境技術、アフターサービス体制の充実等が評価を得て、好調な販売につながっています。

シンガポール



ブンゴール「Watertown」

分譲マンションなど、現地企業と展開する6プロジェクトの住宅は、ほぼ完売。引き続き良好なパートナーシップを維持し、新規案件を継続的に取得します。

オーストラリア



シドニーセントラルパーク「Connor」棟



シドニー郊外「The Hermitage」

シドニー湾周辺で、既に3,000戸を超える住宅を販売。このほかに、この需要の高いエリアを中心に約8,000戸の大型複合都市開発を実施するなど、継続的な成長を進めています。戸建住宅では、積水ハウスの木造住宅「シャーウッド」の構造や基本性能を維持しつつ、現地の気候・文化・市場に合わせてカスタマイズしたオーストラリア版「シャーウッド」が市場の評価を得て、シドニー郊外の分譲地「The Hermitage」での販売、今後の計画が進んでいます。また、セントラルパークの「Connor」棟がこのたび、Urban Development Institute Australia (UDIA)にて「High Density Award」（高層ビル最高賞）を受賞しました。周辺のデザインに溶け込む素材、斬新なデザインや環境配慮の技術などが高く評価されました。

詳しくは積水ハウスのグローバルwebサイトをご覧ください。
<http://www.sekisuihouse-global.com/jp/>

株主様見学会のご報告

～静岡工場「生産・製造ライン」、静岡「住まいの夢工場」編～

開催日

2017年
7月13日(木)



夢を…支える、広げる、形にする。

住まいの夢工場

株主の皆様へ積水ハウスの事業活動へのご理解を深めていただく機会として株主様見学会を開催いたしました。今回は、静岡工場にて、鉄骨躯体のオートメーション製造ラインと、木造住宅シャーウッド専用のオリジナル陶版外壁「ベルバーン」の製造ラインの見学。そして「住まいの夢工場」では、新設された「リノベーション体験ゾーン」をはじめ、積水ハウスの住まいづくりについて様々な体験をしていただきました。

遠方より多数の皆様にご参加いただきました当日の様子をご紹介します。



震度7の揺れを体験できる「安震館」



鉄骨住宅の躯体製造ラインを見学



木造住宅シャーウッドのオリジナル陶版外壁「ベルバーン」製造ラインを見学



陶版外壁「ベルバーン」



IRプレゼンテーション

● お知らせ ●

環境・CSR活動の年次報告書 「サステナビリティレポート2017」発行

積水ハウスの環境・CSRに関する取り組みをまとめた「サステナビリティレポート2017」を5月末に発行しました。本報告書では、環境・社会の価値創造と持続可能な社会への先導を目指して策定した長期ビジョン「サステナビリティビジョン2050」を明記。財務・非財務情報の関連性を「統合報告パート」で開示しています。

以下のURLより、本レポートをPDFデータで見ることができます。

<http://www.sekisuihouse.co.jp/sustainable/download/index.html>



お問い合わせ先：積水ハウス(株) コーポレート・コミュニケーション部 CSR室 TEL：06-6440-3440

会社情報

会社概要

社名 積水ハウス株式会社
 設立年月日(実質上) 1960年8月1日
 本社 〒531-0076
 大阪市北区大淀中一丁目1番88号
 (梅田スカイビルタワーイースト)
 TEL.(06)6440-3111(代)
 資本金 2,025億9,120万円

役員一覧 (2017年7月31日現在)

代表取締役会長兼CEO	和田 勇	常務執行役員	三谷 和司
代表取締役社長兼COO	阿部 俊則	常務執行役員	岩田 晴幸
取締役副社長兼CFO兼副社長執行役員	稲垣 士郎	常務執行役員	赤松 大介
取締役副社長兼副社長執行役員	伊久 哲夫	常務執行役員	石田 建一
取締役	三枝 輝行	常務執行役員	尾形 則昭
取締役	涌井 史郎	常務執行役員	内山 和哉
取締役兼専務執行役員	内田 隆	常務執行役員	三浦 敏治
取締役兼専務執行役員	勝呂 文康	常務執行役員	石井 徹
取締役兼常務執行役員	西田 勲平	執行役員	石崎 道夫
取締役兼常務執行役員	堀内 容介	執行役員	山田 寿夫
取締役兼常務執行役員	仲井 嘉浩	執行役員	松島 雄一
常任監査役	和田 純夫	執行役員	黒田 章
常任監査役	吉田 憲五	執行役員	皆川 修
監査役	篠原 祥哲	執行役員	島 貴利一
監査役	國定 浩一	執行役員	寺村 太志
監査役	小林 敬	執行役員	上條 英之
常務執行役員	藤原 元彦	執行役員	畔柳 均
常務執行役員	中田 孝治	執行役員	小井 孝員
常務執行役員	芦田 登	執行役員	雨宮 豊
常務執行役員	佐藤 博之	執行役員	石井 正義

主な事業所

- 東京支社 〒107-0052
東京都港区赤坂四丁目15番1号
(赤坂ガーデンシティ)
TEL.(03)5575-1700(代)
- 東北営業本部 〒980-0014
仙台市青葉区本町二丁目15番1号
(ルナール仙台)
TEL.(022)265-1705
- 東京営業本部 〒151-8070
東京都渋谷区代々木二丁目1番1号
(新宿マインズタワー)
TEL.(03)5352-3200
- 東京シャーマン事業本部
〒151-8070
東京都渋谷区代々木二丁目1番1号
(新宿マインズタワー)
TEL.(03)5352-3220
- 神奈川営業本部 〒220-8120
横浜市西区みなとみらい二丁目
2番1号(横浜ランドマークタワー)
TEL.(045)650-7311
- 埼玉営業本部 〒330-0854
さいたま市大宮区桜木町一丁目
7番5号(ソニックシティビル)
TEL.(048)647-3931
- 東関東営業本部 〒261-7119
千葉市美浜区中瀬二丁目6番1号
(WBGマリブイースト)
TEL.(043)350-1811
- 北関東営業本部 〒320-0811
宇都宮市大通り二丁目1番5号
(明治安田生命宇都宮大通りビル)
TEL.(028)636-6761
- 中部第一営業本部 〒450-6042
名古屋市市中村区名駅一丁目1番4号
(JRセントラルタワーズ)
TEL.(052)533-1637
- 中部第二営業本部 〒422-8067
静岡市駿河区南町18番1号
(サウスポット静岡)
TEL.(054)284-1222
- 西日本シャーマン事業本部
〒531-0076
大阪市北区大淀中一丁目1番93号
(梅田スカイビル ガーデンシックス)
TEL.(06)6440-3456
- 関西第一営業本部 〒531-0076
大阪市北区大淀中一丁目1番93号
(梅田スカイビル ガーデンシックス)
TEL.(06)6440-3645
- 関西第二営業本部 〒604-8186
京都市中京区烏丸通御池下る
梅屋町358番地
(アーバネックス御池ビル西館)
TEL.(075)211-6201
- 中国四国営業本部 〒731-0113
広島市安佐南区西原五丁目16番6号
(ケイ・ティビル)
TEL.(082)871-7701
- 九州営業本部 〒812-0011
福岡市博多区博多駅前三丁目25番
21号(博多駅前ビジネスセンター)
TEL.(092)472-3211
- 国際事業部 〒531-0076
大阪市北区大淀中一丁目1番88号
(梅田スカイビルタワーイースト)
TEL.(06)6440-3723
- 開発事業部 〒531-0076
大阪市北区大淀中一丁目1番88号
(梅田スカイビルタワーイースト)
TEL.(06)6440-3565
- マンション事業本部 〒160-0023
東京都新宿区西新宿一丁目20番
2号(ホウライビル)
TEL.(03)6302-3621

IRカレンダー

- 2017年12月上旬 ●第3四半期決算発表
- 2018年3月上旬 ●決算発表
- 4月下旬 ●定時株主総会
- BUSINESS REPORT
(第67期報告書)送付

株式情報

株式の状況 (2017年7月31日現在)

発行可能株式総数	1,978,281,000株
発行済株式の総数	690,683,466株
単元株数	100株
株主数	73,643名
株主1人当たり持株数	9,379株

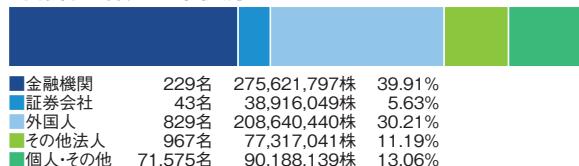
大株主(上位10名)

株主名	当社への出資状況	
	所有株式数(株)	所有比率
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	51,158,200	7.41%
積水化学工業株式会社	42,168,727	6.11%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	39,271,800	5.69%
積水ハウス育資会	13,845,402	2.00%
株式会社三菱東京UFJ銀行	13,624,515	1.97%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	12,633,800	1.83%
第一生命保険株式会社	12,158,730	1.76%
JPモルガン証券株式会社	12,147,462	1.76%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口7)	10,154,800	1.47%
SMBC日興証券株式会社	10,020,400	1.45%

所有株数別株式分布状況



所有者別株式分布状況



株主メモ

事業年度	2月1日から翌年1月31日まで
定時株主総会	4月
基準日	期末配当金 1月31日 中間配当金 7月31日
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 TEL.0120-094-777 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所・名古屋証券取引所 市場第1部

各種手続きについて

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)にお問い合わせください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

少額投資非課税口座(NISA口座)における 配当等のお受け取りについて

新規に購入された当社株式をNISA口座でご所有される場合、配当等につき非課税の適用を受けるためには、口座管理機関(証券会社等)を通じて配当等を受け取る方式である「株式数比例配分方式」をお選びいただく必要があります。ご所有の株式のうち、特別口座に記録された株式をお持ちの株主様は、特別口座から証券会社等へ振替いただくことで「株式数比例配分方式」をお選びいただくことが出来ます。NISA口座等に関する詳細につきましては、お取引の証券会社等にお問い合わせください。

※本株主メモは2017年7月時点の情報をもとに作成しております。

“住むコトのヒントが、ここにある”

住ムフムラボ

SUMUFUMULAB

グランフロント大阪(北館)
ナレッジキャピタル4階
JR大阪駅、各線梅田駅より徒歩圏内
定休日▶水曜日・年末年始
開館時間▶10:00~19:00

入館無料



対話の
ある家



×



SUMUFUMULAB

目以外の何かで、ものを見ようとしたことがありますか?住ムフムラボ内で開催している「ダイアログ・イン・ザ・ダーク(以下DID)※1」の会場は、純度100%の暗闇です。どんなに目を凝らしても見えない家で、視覚以外の感覚を呼び覚ます様々なシーンの体験と対話、心地良さを体感する「対話のある家」も5年目を迎えました。

今回は、そんな「対話のある家」のスペシャルコンテンツとして開催した「食禅(じぎぜん)※2 IN THE DARK」についてご紹介します。

スペシャルコンテンツ

食禅 IN THE DARK | 2017年6月23日

住職・禅アーティストである柿沼忍昭和僧が「対話のある家」にお招きしての食事を通して禅の心を学ぶ「食禅 IN THE DARK」。

まずは暗闇の中、和僧の言葉のもと、座禅体験。心静かに美しい禅の食事の所作を学び、その後、「今・ここにある」「大切な人・もの・こと」への感謝、そして五感で味わう素晴らしさなど、「食禅」の説法を聞き、お粥を丁寧にいただきます。

食べることは、単なる栄養やエネルギー補給以上のものがあります。だからこそ、食べることをおろそかにしたくはないもの。純粹に食事に集中し、自分自身との対話をも深める厳かで心豊かなひとときになりました。



器には、DIDアテンドと職人が一緒に開発した会津漆器「めぐる」を使用

※1 DIDは1988年にドイツで誕生、世界41ヶ国以上で開催された暗闇のソーシャル・エンターテインメントです。完全に光を遮断した空間の中ヘグルーブを組んで入り、暗闇のエキスパートである視覚障がい者のアテンドのもと、様々なシーンを体験します。世界で唯一暗闇で住空間を体験する「対話のある家」は、積水ハウスとDIDの共創プログラム。参加者は“家族”として暗闇へ入り、自分にとっての家という存在やコミュニケーションを再認識します。

※2 食禅(じぎぜん)は、柿沼忍昭和僧による造語

シーズンごとに変化するプログラム

第18回 | 9月7日~10月9日

「まっくらの中は月明かりの響き」

▶今後の開催予定や申込方法など詳しくはWEBで sumufumulab.jp



積水ハウス株式会社

本社 〒531-0076

大阪市北区大淀中一丁目1番88号

梅田スカイビル タワーイースト

TEL.(06)6440-3111(代)

<http://www.sekisuihouse.co.jp/>



MEMBER OF

Dow Jones
Sustainability Indices

In Collaboration with RobecoSAM ◀▶

積水ハウスはESG投資の代表的株式指標「Dow Jones Sustainability Indices (DJSI) World Index」に選定されました。